

自分の生活や自己の生き方に向き合う道徳科の授業展開

【研究代表者】伊澤 真佐子（和歌山大学教職大学院）

【共同研究者】田中 千映，糸我 直人（和歌山大学教育学部附属小学校）

宇治田 乃（和歌山大学教職大学院学校改善マネジメントコース大学院生・和歌山市立小倉小学校）

1. はじめに

道徳科の授業で、道徳的価値に照らして自己を主体的に見つめ、自己課題を見つけ出していく力を育てることが道徳性を養うことにつながる。そこで、自分の生活につなげ、高まった道徳的価値から自分の生活を振り返り、将来どうありたいかを思い描いて自己の生き方に向き合う道徳科の授業展開について研究することにした。

2. 体験的活動、成長シートを活用した授業展開

実践者：糸我直人（和歌山大学教育学部附属小学校3年B組）

本実践は、「今までの自分についての成長シートを授業後の振り返りに活用することで、子どもが自己を見つめ直し、探究の質を高めることができるであろう。」を主張点とした。

このようにカリキュラムを総合単元型で組み、子ども達と共に学習テーマを設定し、自分事として考えられるように授業づくりの「しかけ」を行った。

本実践は、4つの道徳科の授業を中心として単元を組んでいる。1つ目の実践「お父さんからの手紙」で学習テーマを設定した後、成長シートを活用して、自己の成長を感じるように工夫している。4つの授業を順に中心発問と終末を中心に考察する。

2.1 「お父さんからの手紙」ー学習テーマの設定ー

R2. 10.5

この授業は、お父さんが息子に宛てた手紙の内容から、生命が周りの多くの人々によって守られ、育てられている尊いものであるということを理解し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして行われた。

中心発問：お父さんからの手紙を読んだ健一は、どんなことに気づいたのでしょうか。

終末：命を大切にするために、どんなことに気づきたいですか。

中心発問から、守られている命、支えられている命に気づいた子ども達は、終末の振り返りでは、「ぼくは、命を大切にしながら生活したい。お父さんやお母さんがぼくを大切にしてくれていることを思いながら生活したいです」「感謝したい」「いろんな人が守ってくれている」「これから命をむだにしないで生きていきたい」「難しいことでも何でものりこえたい」などの記述が見られた。国語科の「ちいちゃんのかげおくり」の振り返りと合わせて「自分をかがやかせるためにどうすればよいだろうか」を設定した。

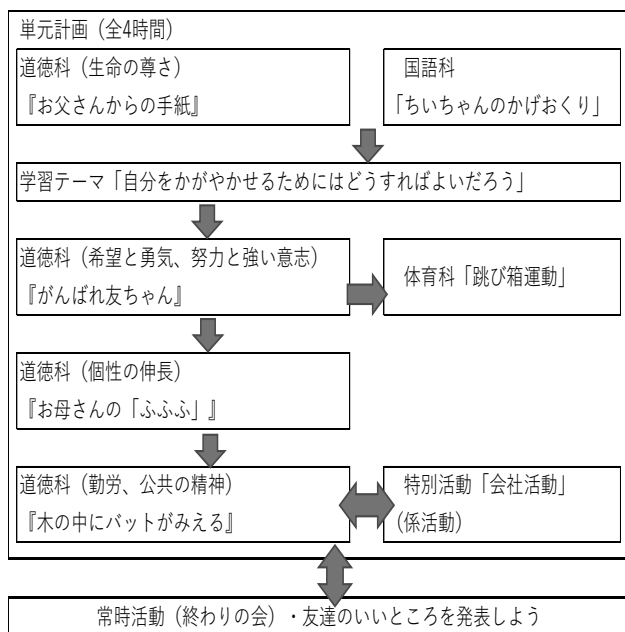


図1 単元計画

2.2 「がんばれ友ちゃん」－成長シートの活用 1 回目－

R2. 10. 16

この授業に入る前に、学習テーマには、何が必要だと思うかを各自成長シートに記入した。写真の成長シートは、田沼茂紀（2018）「道徳科授業のネタ&アイデア 100 小学校編」明治図書 P114P115 を参照したものである。学習前の考えとして「今できないことをできるようにすればかがやかせると思う」「あきらめない」などが書かれていた。

この授業は、逆上がりができなかった友ちゃんが、先生や友達に励まされてできたときのうれしさを考えることを通して、自分でやろうと決めた目標に向かって、粘り強くやり抜こうとする態度を養うことをねらいとして実践された。

中心発問：「もうやめたいな」と思ったのに続けられたのはどうしてでしょう。

終末：みなさんもがんばってやり通したことはありましたか、またどんな気持ちになりましたか。

（自分の生活をふりかえる）

自分をかがやかせるために、今日の学習で学んだこと、感じたこと、考えたことをまとめましょう。

（成長シートに書く）

成長シートには、「勇気」「努力」「挑戦する気合」「自分がそれをやり続けて成功させたいかどうか」「あきらめなくなってもあきらめない心」などが記入されていた。

2.3 『お母さんの「ふふふ」』－体験活動を入れる、成長シート 2 回目－

R2. 10. 22

この授業では、教材で誰にでもよいところがあることを理解し、それを積極的に伸ばそうとする実践意欲を高めるために、グループで互いにいいところを見つけ交流するという活動を入れた。

中心発問：お母さんの「ふふふ」を聞いて、「わたし」はどんなことを考えたでしょう。

終末：グループで互いのいいところを見つけ交流し、その後全体で感想を交流する。

成長シートに今日の学習で学んだことを書く。

教材で主人公の美紀がおとなしい加藤さんのいいところをどうして見つけることができたのかを「美紀がちゃんと見ようと思ったから見つかった。」など深めたことが後半の体験活動に繋がっていた。体験活動後の全体での話し合いでは友達の良いところを見つけていこうとする意欲が感じられた。

授業記録抜粋

T：いいところ見つけをして感想はどうですか。

C：はじめは見つからなかったけど、日常のことを思い浮かべたらクラス全員のいいところが見つけられた。

C：自分にいいところがあるって思っていなかったからいいところがあって良かった。

C：人のいいところを見つけたら友達も喜ぶし、友達も自分もいい気持ち。

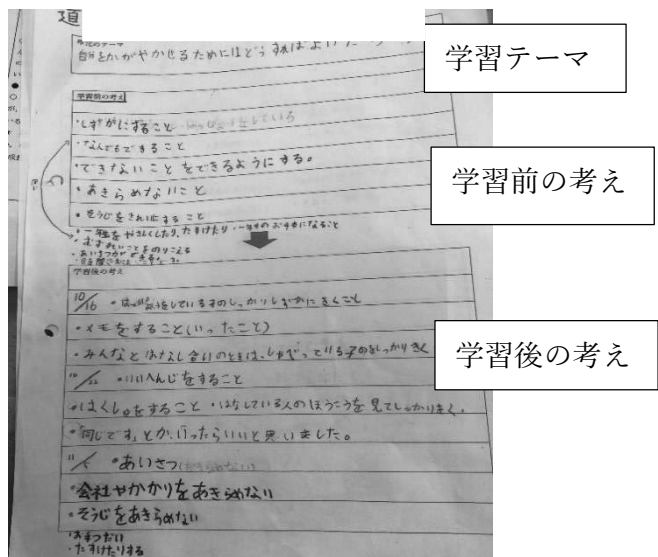


図2 成長シート 1

- 10/22
- ・人のいいところを見つけられてよかったです。
 - ・自分のいいところをいっぱいみつけてもらったのでよかったです。
 - ・これからも「よかったさん」をいっぱいみつけたいです。



図3 いいところ見つけカード

2.4 木の中にバットがみえる—単元のまとめとこれからの生活へのつながり— R2. 11.5

4回目の授業では、内容項目「勤労、公共の精神」から学習テーマについて考えた。この教材はプロ野球で使われているバットを作る職人久保田さんの生き方を描いている。

中心発問：どうして一流の選手にバットを作るくらいですごい職人さんになれたのかな。

終末：みんなも、誰かのために頑張っていることってあるかな。

教材で久保田さんのバット作りへの思いを学んだ後、自分たちの係活動や家でのお手伝いを振り返り、プロのような気持ちで自分の仕事を頑張っているのかを考えていった。

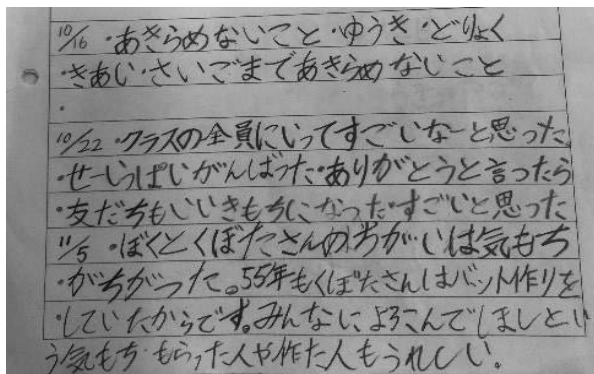


図4 成長シート 学習後の部分

11/5 ぼくと久保田さんのちがいは、気持ちがちがった。55年もくぼたさんはバット作りをしていたからです。みんなによろこんでほしいという気持ち。もらった人や作った人がうれしい。

このように、自分たちで設定した学習テーマで、1枚の成長シートを使って学習することにより、子ども達は意識の連続性をもつことができた。テーマに「自分を」とあるので、自分の生活と結びつけて振り返りやすく、「かがやかせるために」という言葉からこれからの自己の生き方に思いを馳せやすかった。この学習で、帰りの会の「よかったさん」の質が変わってきたこと、「自分を褒めたい」と自信を持つ子が増えたことが成果として挙げられる。また、成長シートから、教材を読んで、テーマを繋げようと意識しながら学習できたといえる。

3. 動作化、iPad を活用した授業展開

実践者：田中千映（和歌山大学教育学部附属小学校1年B組）

本実践では、内容項目「礼儀」について扱った。その中でも挨拶に関する教材は、小学校1年生から中学校3年生まで教科書で扱われている。

そこで、各自が作った指導案と教材を比べることから始めた。

小1 「『ありがとう』『ごめんなさい』（日文）
「どんなあいさつをしますか」（日文）

小4 「あいさつができた」（日文）

小5 「あいさつ運動」（日文）

中3 「言葉おしみ」（東書）

中3の教材では、ねらいが「社会生活の中で礼儀の意義や役割を理解し、時と場合に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる」となっており、心と言葉が一致した所作は他人の共感を得ることなど、内容が深まっていることが感じられる。

一方小1では、基本的な挨拶などについて具体的な状況の下で体験を通して実感的に理解を深めさせることが必要となる。

3.1 「ありがとう」「ごめんなさい」R2. 6.22

小学校1年生担任の田中教諭は、挿絵からどのような場面かを確かめ、動作化を行いながら、それぞれの発問をしている。

T：消しゴムを拾った場面で、「ありがとう」と言われたとき、どんな気持ちになりますか。

T：消しゴムを拾った場面で、何も言われなかったとき、どんな気持ちになりますか、

友達がぶつかってきた場面でも、同じようにし、その後、

T：「ありがとう」や「ごめんなさい」を言った時と言ってない時では、どのように違うでしょう。

と発問し、気持ちを伝えることで、相手が気持ちよくなることを感じられる学習過程にしている。この実践の時は、休業から学校が再開されてあまり間がなかったため、中心発問を設けて深めるところまではいかなかった。しかし、動作化で言葉と言った時と言わなかった時の互いの気持ちの違いを考えさせ

ることで、自分の生活の中でも、気持ちの良い挨拶を心がけようとする心情を育てようとした取組であった。

3.2 どんなあいさつをしますか R2. 10.5

内容項目「礼儀」の2回目の授業となる。本時の学習課題を「あいさつをするとき、大切なことはどんなことだろう」と示して授業を行った。

教材にある3つの場面でどんな挨拶をするかを考え、それぞれの場面で、挨拶の仕方が違うのはどうしてかを考えることを中心発問とした。

中心発問での授業記録を抜粋すると、

T：どうしてこんなに挨拶の仕方が違うのかな。
C：一番目は夕方、次は朝で、次が昼。朝、昼、夕方、晩で挨拶が違うから。
C：だんだん大きくなっている。大人になったらいいねいに話す。
C：ぼくより年上だったらいいねいに言う。
T：荷物を持ちましょうか、って言ってくれた人はどうして？
C：荷物がいっぱい重たそう。
T：こんなことを言われたお婆さん、嬉しいね。こんなふうに、相手の人が嬉しくなるといいね。

その後、自分の生活を振り返る時に、警備員さんへの挨拶を、自分、警備員さん、撮影者の3人でグループを作って動作化し、互いに iPad で撮影した。

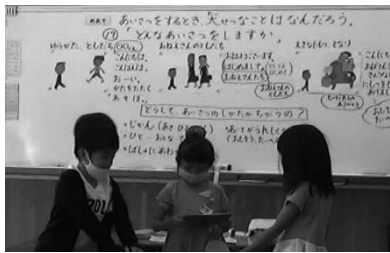


図5 iPadでの撮影を確認

グループでの動作化撮影後、全体の話し合いでは、撮った動画を映しながら自分の挨拶について説明した。

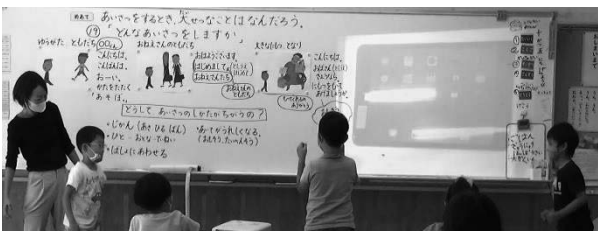


図6 動画を使って全体での発表

自分が動作化した様子が iPad で見ることで、子ども達はすぐに確認していた。撮り直しをしているグループもあり、自分の動画から何か気付いたことがあったことが伺える。学校の校門にいる警備員さんという具体的な相手をもと動作化したのでイメージしやすかった。振り返りでは、「誰にどんな挨拶をしようかな、どんな言い方をしようかな、こんな挨拶をしたいですって書いてごらん」と自分の生活の中での挨拶の仕方を考えさせた。

4. 生活に活かす振り返りを工夫した授業展開

実践者：宇治田乃（和歌山市立小倉小学校3年A組）

実践者は、教職大学院のマネジメントコースに在学しているため、勤務校の3年生の学級で研究テーマに基づいて授業展開を考えて実践した。

教材名 たつきゅうは4人まで R2. 9.28

この教材は、仲良し4人で卓球をする約束をし、仲間に入れてほしいと言ったとおるを「卓球は4人まで」と断わったしゅんたちが当日も気になり、次の日謝るために朝から校門で待っているという話である。

中心発問：四人で卓球をしたしゅんが、あまり楽しめなかったのは、どんなことが心に引っかかっていたからでしょう。

終末：しゅんたちは校門でとおるを待っているとき、どんな気持ちだったのだろうね。今日のお話であなたの生活に活かせそうなことを道徳ノートに書きましょう。

ねらいは、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする道徳的心情を育てる」である。

4.1 中心発問を深める繰り返し発問

この実践では、中心発問での繰り返し発問がポイントとなった。中心発問で、子どもたちから、「かわりばんこにすればよい」「交代で遊べる」「教えてもらえてさらに楽しいかもしれない」などの意見が出た。授業者は、さらに深めるために「断るのも無理なかったのではないかな」と繰り返し発問をし、「それでもやっぱりとおるも一緒に遊べばよかつ

た」と考えさせたかったが、予想に反して「それもそうだから、次からは優しく断る」という意見に流れてしまった。教師の言うことは正しく、聞くべきという思いが子どもたちにあったのであろうか。担任のクラスでないので、子どもの実態が分からないが、この切り返しは適切でなかったと思われる。

では、深める発問としてどのようなものが良かったのだろうか。例えば「その日に謝っているから、もういいよね」が考えられる。しゅんが「さっきはごめんね。来ていいよ」と言ったが「卓球は4人までなんだろ」と言われ解決できなかった場面を取り上げるのである。また、この場面では断られたとおるの気持ちを取り上げて視点を変えることで、思考が深まることも考えられる。子どもたちは今までの、生活経験から意見を述べるが、教師の予想に反することもある。ねらいに近づけるための補助発問、切り返し発問を吟味しなければならない。

4.2 振り返りの書きだしの工夫

振り返りとして「自分の生活に活かそうな」とを「自分だったら～」「自分も～」「これからは～」という書き出しで書くように指示した。

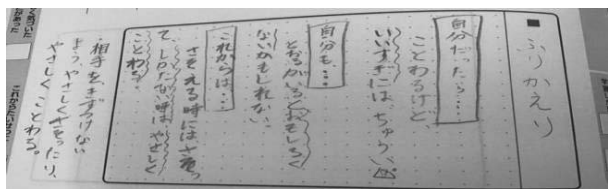


図7 児童の振り返り

- A 自分だったらことわるけど、いいすぎにはちゅうい。自分もとおるがいるとおもしろくないかもしれない。これからは、さそえるときにはさそってしかたないときはやさしくことわる。相手をきずつけないよう、やさしくさそったりやさしくことわる。この他にも、
- B 自分だったら、入れてほしい人を入れる。5人だったら4人でして1人がしんばんをする。次の試合になったらわかる。
- C 自分だったら、こうたいごうたいでやるよ。自分だったら悪口じゃなくて、やさしくごめんね、と言うよ。

D 自分だったら入れてあげる。だってほかの子だってやりたいのに入れてくれなかったらかわいそうだから。1時間半でもじゅうぶん5人でこうたいしたらできる

と書かれていた。Aは、断るけれど相手の気持ちを考えて優しく断ると考えている。B、C、Dは、遊び方を工夫して仲間に入れると考えている。Dのように、「自分だったら～」に加えて「理由は～」と続けられると理由を考えることで自分の考えがはっきりとし、深めることになるのではないだろうか。今後も実践をして検証したい。

5. おわりに

「自分の生活や自己の生き方に向き合う道徳科の授業展開」の実践に共同研究者と共に取り組んだ。

総合単元型の道徳学習として実践した糸我教諭の実践は、4つの道徳科の教材を要に一つのテーマを意識した実践である。テーマを自分達で選定し自分事として考えやすい言葉であったことが、自分の生活に結び付けやすかったと考える。「成長シート」を使って学びを可視化することで、学びの連続性を感じ、自分のよさに目を向けながら自己の生き方に向き合うことができたと考える。

道徳的行為に関する体験的な学習の動作化を実践した田中教諭の実践からは、実際に動作することでの気づきをていねいに扱っており、道徳的価値の良さを実感することで自分生活を振り返りながら道徳的価値を自分との関わりで捉え直しながら向き合おうとしていたと考えられる。

中心発問を深める切り返し発問や振り返りの書き方の工夫を実践した宇治田教諭は、発問の工夫、書く内容の工夫という授業づくりの中では欠かせない。生活教材という特徴を活かしたこれらの工夫が自分の生活や生き方に向き合うことにつながる実践だと考えられる。

児童の実態、教材の特徴、教育活動全体を考え、これからも指導方法の工夫を研究していきたい。